

慶應義塾体育会理事

阪埜 光男



## 刊行の辞

明治25年(1892年)、慶應義塾はこれまで個々に活動していた剣術、柔術、野球、端艇の各運動部を集合統一し、新たに弓術、操練(兵式体操)、徒歩の各部を設けてこれを組織化した。慶應義塾体育会(以下たんに体育会という)の誕生である。爾来、明治、大正、昭和、平成と時代が進むにつれて、体育会に所属する部の数は増加し、現在は38の部を擁する大きな組織体となっている。そして、体育会は本年(平成4年)創立100年の記念すべき年を迎えたのである。この間、体育会は、いつの時代にも、その時々  
の時流に染まることなく、塾祖・福澤諭吉先生の教え(心身ともに健全なる者は能く社会万般の難きを冒して独立の生活を為すことを得——明治26年3月23日付「時事新報」における記述)を遵守し、スポーツだけに専念することなく、学問とスポーツの両立を図りながら、競技成績の向上を目指して努力に努力を重ねてきた。そして、各部の競技成績には消長あるものの、全体としては、常に学生スポーツの指導的役割を果たしてきたのである。その意味で体育会100年の歴史は「栄光の歴史」といってよいであろう。

ところで、従来、体育会は5年ないし10年を節目として、記念式典等を挙行し、記念誌を刊行してきた。このようなことは、たんに過去の栄光の歴史を回顧するだけではなく、新たな決意をもって、次の5年、10年を目指して更に飛躍する契機をつくるために行われてきたといえる。100年という節目は大きな節目であることを考えると、体育会創立100年の記念行事はグローバルなものであることが望ましい。

すでに、平成3年4月、体育会創立100年記念事業委員会が三田体育会、塾体育会、学生三者の代表者によって組織され、その傘下に三つの部会が設置されて記念事業の準備が進行している。記念誌の刊行は、主として第2部会(部会長今栄貞吉副理事)が担当し、宮部美充主事を中心に、各部の協力を得て、記録写真等の蒐集にもとづく編集作業が行われ刊行の運びとなるに至った。体育会創立100年のシンボル・マークも設定され、「簡素で印象深いスポーツの祭典」をキャッチフレーズに各部会においてイベントの内容を検討中である。

本記念誌は、従来のそれとは異なり、ヴィジュアルであることに力点をおいて編纂されている。従って各部の写真(記録的なものや印象深いもの)が多く掲載されており、それに関する文章はコメント程度の短いものとなっている。現在は、テレビに代表されるように視覚重点主義の時代であることを考慮しての結果である。このように、写真集的な構成をとったため、各部における代表的な写真を集めるのにかなりの時間を要した。もとより、このような作業は少人数で出来るものではない。この記念誌が見ごたえのあるものとなっているとすればそれは、各部の諸先輩、現役の諸君、編集・出版関係者等の一致協力のお蔭であり、これら関係者各位のご努力に対し感謝申し上げたい。

歴史と伝統に輝く体育会は、今年をスタートラインとして次の100年に向かって進むことになるが、力強い第1歩を踏み出すことを期待して、刊行の辞とさせていただきます。